

にほんじん 日本人がきれいなこと

動画リンク：<https://youtu.be/KMBPmYMROyk>

今回は「日本人がきれいなこと」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があります。
後半は少しだけ速く（+20%）なり、漢字に「ふりがな」はありません。
学習にお役立てください。

■私のこと

私の名前は川口直美です。東京に住んでいます。私はこくさいこうりゅうがだいすきで、
さまざまなほうほうで外国人の友だちを作り、楽しくこうりゅうしています。言語こうか
んやこくさいイベントへのさんか、かんこうガイドのボランティアなど、いろいろな活動
を通じて、多くの文化や考え方にふれることを楽しんでます。外国の料理をいっしょに
作ったり、日本の文化をしょうかいしたりすることで、おたがいに新しい発見をしながら、
ふかいゆうこうかんけいをきずいています。こくさいこうりゅうを通じて、毎日がとても
じゅうじつしています。

ある日、外国の友だちから「日本人がきれいなことって何？」と聞かれました。そのとき、
少し考えてからいくつか答えました。日本人はこうきょうの場での大きな声やマナーのな
い行動がきれいです。また、こんざつしたばしょやあらいごとも苦手です。こういった
ことは、私じしんも「いやだな」とかんじることがあります。

たとえば、電車の中で大声で話している人を見ると、まわりの人が少しこまったかおをす
ることがあります。日本では、しずかにすすることがマナーとされているので、そういう
行動は「きれい」と思われやすいです。また、れいぎを守らない人にも、日本人はあまり
よいいんしょうを持ちません。あいさつをしない人や、思いやりのない行動を見ると「も
う少し気をつけてほしい」と思う人が多いです。

こうした「きれいなこと」は、日本の文化や生活しゅうかんから生まれたものです。でも、
これを知ること、日本人ともっと気持ちよくこうりゅうできると思います。これから、
私がかんじる日本人の「きれいなこと」を、くわしくお話しします。

■こうきょうの場で大きな声

日本人は、こうきょうの場で大きな声を出すことをとてもきれいです。たとえば、電車や
バスにのるとき、多くの人がしずかにすわったり、本を読んだりしています。話をする人
もいますが、声はとても小さいです。これは、まわりの人にめいわくをかけないためのマ
ナーとして大切にされています。

ある日、私は外国から来た友だちと電車にのりました。その友だちはとても楽しそうに話していましたが、声が少し大きかったです。すると、まわりの人がしずかにその友だちをじっと見る場面がありました。その後、友だちに「どうしてみんな私を見ているの?」と聞かれました。私は、「日本では電車の中でしずかにするのがマナーだからだよ」とせつめいしました。友だちは「それは知らなかった!次から気をつけるね」と言っていました。

さらに、日本では公共の場での電話もきられることがあります。電車の中で電話がなると、多く的人是ぐに切ったり、音を消したりします。これも、まわりの人にふかいな思いをさせたくないという気持ちからです。

外国の友だちから「どうして日本人はそこまでしずかにするの?」と聞かれることがあります。そのたびに私は、「日本ではしずかな時間や空間を大切にしているからだよ」と答ええます。

公共の場でしずけさを守ることは、日本人にとって非常にじゅうようです。それを知らずに大きな声を出したり、電話をしたりすると、日本人から「めいわくだな」と思われることがあります。

■れいぎをかく行動

日本人は、れいぎをかく行動をとともぎらいます。たとえば、あいさつをしなかったり、「ありがとう」や「ごめんなさい」を言わなかったりすることに対して、ふかいにかんじる人が多いです。れいぎ正しさは、日本人にとって相手を思いやる大切な行動と考えられています。

私が小学生のころ、学校では先生に会ったら必ず立ち止まって「こんにちは」とあいさつをするのがルールでした。ある日、私はあいさつをわすれてしまい、先生に「あいさつは相手を気持ちよくする大事なことだよ」と注意されました。それ以来、私はどんなときでもあいさつをわすれないようにしています。このけいけんを通じて、れいぎの大切さを学びました。

また、日本では「けいご」とよばれるとくべつなことばづかいがあります。これは、目上の人やあまり親しくない人に対して使うことばです。たとえば、「来る」を「いらっしゃる」と言いかえることで、相手にけいごをひょうじます。けいごを正しく使えないと、相手にしつれいだと思われることがあります。れいぎの一部として、けいごを使うことは日本人にとってじゅうようです。

外国の友だちから「なんで日本人はそんなにれいぎを大切にするの?」と聞かれることがあります。そのとき私は、「れいぎは相手を大切に思っていることをつたえるためだよ」と答ええます。そして、「日本人はれいぎを守らない行動をあまり好まないんだ」とも説明します。れいぎをかく行動は、日本人にとって「相手を思いやる心がない」とかんじられることがあります。そのため、あいさつをしない、けいごを使わない、かんしゃのことばを言わないことは、きられるげんいんになりやすいです。日本人のれいぎへのこだわりをりかいすることで、よりいいかんけいをきづくことができるでしょう。

■こんざつをきらう

これは日本だけのことではありませんが、多くの方がこんざつした場所をきらうのは自然なことです。しかし、日本では特にこんざつがストレスのげんいんになりやすい文化や生活しゅうかんがあります。ただし、日本全体がこんざつしているわけではなく、都会の電車やバスなどが特にこんざつしやすい状況です。

私が高校生だったころ、毎朝の電車はまんいんで、ぎゅうぎゅう詰めの中で通学していました。おされたりバッグが落ちたりすることもよくありました。一度、電車で新聞を広げて読んでいる人がいて、まわりの人がめいわくそうなかおをしていました。そのとき、私は「こんざつした場所ではほかの人をもっと気づかうべきだな」と感じました。

日本人がこんざつをきらう理由には、いくつかの考え方があります。一つは、個人の空間を大切にす文化です。日本では、なるべくまわりの人にめいわくをかけず、自分のスペースを守りたいと思う人が多いです。そのため、まんいん電車やこんざつした場所では、ストレスをかんじやすくなります。

また、日本人の多くはしづけさやちつじょを重んじるため、こんざつした場所でのトラブルやふかいなけいけんをさけたいと考えます。たとえば、駅のホームでおし合う場面では、わずかなせつしよくでもおたがいにきまずいふんいきになることがあります。こうした状況をきらうため、こんざつをさけようと工夫する人が多いです。

こんざつをさけるために、都会ではラッシュをさけて、早朝やしんやにつうきん・通学をちようせいする人もいます。地方ではそもそもこんざつ自体が少ないため、こうした問題はあまり見られません。外国の友だちにこの話をすると、「そんなにこむのは大変だね」とおどろかれることがよくあります。

日本人がこんざつをきらう理由は、相手を思いやる気持ちと自分のストレスをへらしたい気持ちがあみあわさったものです。この考え方をりかいますと、日本の文化や生活しゅうかんがもっとわかりやすくなるかもしれません。特に都会のこんざつをどうのりこえるかが、日本での生活の大切なポイントの一つと言えるでしょう。

■あらそいをきらう

日本人は、あらそいごとをとともきらうけいこうがあります。たとえば、友だちや同りょうと意見がちがう場合でも、ちよくせつ対立するのではなく、しづかに話しあいでかいけつしようとする人が多いです。このような考え方は、相手とのかんけいを大切にしたいという日本人の気持ちから生まれています。

私が大学生だったころ、グループでかだいをするきかいがありました。その中で、一人のメンバーが強い意見を持っていましたが、ほかのメンバーはその意見にさんせいしていませんでした。

しかし、みんなその人に「それはちがうよ」とちよくせつ的に言うことはさげ、代わりに別のていあんをして、全員がなっとくできる方法を見つけました。けっかとして、あらそいは起こらず、かだいもうまく終えることができました。

あらそいをさける日本人の考え方は、外国の友だちにとって少しふしぎに思えるようです。たとえば、イギリスから来た友だちに「日本人はどうしてもっと自分の意見を言わないの？」と聞かれたことがあります。そのとき私は、「あらそいをさけておだやかにかけつする方が、相手とのかんけいをこわさないからだよ」と答えました。その友だちは「それはおもしろい考え方だね」とかんしんしていました。

あらそいをきらうことにはいい点もあります。それは、相手を思いやり、おだやかなふんいきをたもつことができることです。しかし、自分の意見をはっきり言わないため、相手に気持ちがつたわらないこともあります。これが、あらそいをきらう日本人の弱点と言えるかもしれません。

あらそいをきらう日本人の考え方をすることで、日本人のやさしさや思いやりに気づくことができます。同時に、この文化が生まれたはいけいをりかいすると、もっとふかく日本人のかちかんにふれることができるでしょう。日本ではあらそいをさけることが、人間かんけいをえんまんにたもつ大切な方法と考えられています。

■にちじょう生活の気づき

最近、私はにちじょう生活の中で「日本人がきらいなこと」について新しい発見をしました。それは、小さなマナーや気づかひがとてもしじゅうようだということです。たとえば、道を歩くときにまわりの人とぶつからないように気をつけたり、エスカレーターではかたがわに立つたりするのがふつうです。こうしたルールをまもらない人を見ると、多くの日本人は「少し困るな」とかんじます。

エスカレーターでかたがわに立つというルールは、急いでいる人が通れるようにするために作られたものです。かたがわをあけることで、歩きたい人がスムーズに通れるようになります。特に、大きな駅やこんざつしている場所では、急いで電車ののりたいたい人や時間がない人が多いので、このルールが役立ちます。また、かたがわに立つことで、全体の動きがスムーズになり、こんらんが少なくなります。

日本ではちいきによって、立つところがちがうこともあります。たとえば、東京では左がわに立ち、右がわをあけますが、大阪では右がわに立ち、左がわをあけます。このちがいは少しふしぎですが、それぞれのちいきで守られているマナーです。エスカレーターでかたがわに立つというしゅうかんは、まわりの人を思いやる気持ちから生まれたものです。

ある日、私がスーパーで買い物をしているとき、れつにならばずに先にすすもうとした人がいました。そのようすを見て、まわりの人は少しふまんそうなかおをしていましたが、だれも文句を言いませんでした。

ただしずかにその人を見ているだけでした。日本では、このような場面でちよくせつ注意
をすることはあまりありませんが、多くの人は心の中で「ちゃんとならんでほしいな」と
おもっています。

また、私は友だちと話しているとき、音楽や動画のおんりょうにも気をつけるべきだと気
づきました。日本では、電車やカフェなどしずかな場所では、音を小さくしてまわりの人
にめいわくをかけないようにするのがいっばんてきです。あるとき、外国から来た友だち
がカフェで動画を見ていましたが、音が少し大きかったため、まわりの人が気になってい
るようすでした。その友だちに「音を少し小さくしたほうがいいのかも」とつたえると、
「そうなんだね、ありがとう」と言っていました。

このように、にちじょう生活の中には日本人が大切にちいする小さなマナーがたくさんありま
す。これらは、日本人が「きれいなこと」を知るヒントにもなります。こうしたマナーを
まもまもることで、日本での生活がより楽しくなり、日本人ともいいかんけいをきずけると思い
ます。

にちじょう生活での気づきは、私にとって日本文化をよりふかくりかいするきっかけにな
りました。これからも、こうした発見を大切にしていきたいと思ひます。

■これからの考え方

日本人が「きれいだ」とかんじることをさけるだけではなく、どのようにむき合い、うけ
入れるかを考えることも大切ちいです。たとえば、日本人は公共の場で大きな声を出すことや
ああらそいごとをきれいしますが、それらをどうかいけつし、気持ちよくすすぐすがじゅうよ
うです。

また、ああらそいをさける日本の文化についても、いい点とわるい点があります。ああらそ
いをさけることで平和なかんけいをたもつことができますが、自分の意見を言わないとご
かいが生まれることもあります。私は、自分の気持ちをつたえるれんしゅうをしています。
たとえば、仕事で意見がちがうときには、相手をきずつけないことばをえらびながら、自
分の考えを話すようにしています。このようにすれば、ああらそいをさけつつも、ごかいを
へらせると思ひます。

こんざつについても、どうむき合うかを考えることが大切ちいです。たとえば、こんざつをさ
けるために時間をずらす工夫をしたり、しずけさを守りながら友だちと楽しむための新し
い方法を考えたりすることで、ストレスをへらしながらすすぐせるようになります。

「きれいなこと」を知ることは、日本の文化やちかかんをりかいする第一歩だいいっぽです。しかし、
それをたんにさけるだけでなく、どうすれば楽しい生活に変えられるかを考えることがも
っと大切ちいです。私わたしも、これからも学びながら、よりいいかんけいをきずけるよう
に成長せいちやうしていきたいと思ひます。日本の文化や考え方を知ること、外国の人たちにも日
本人の思いやりや工夫をつたえることができるといいですね。

「^{にほんじん}日本人がきらいなこと」はいかがでしたか。
コメント欄から^{かんそう}感想をみんなに^{おし}教えてください。
それでは、また別の^{べつ}動画で^{どうが}お会いしましょう。



Easy Japanese-listening-SUSHI